

県民の友

発行 和歌山県 知事公室 広報企画課 〒640 和歌山市小松原通1の1 ☎0734(32)4111

9
昭和59年
11月号



小さな生命の灯をみつめて



県立医科大学附属病院新館にある

新生児集中強化治療室。

この世に生まれてきた
小さな命。

医師、看護婦、そして

お母さんのみまもる目。

みつめる瞳は違つても、

願いは同じ「健康に育て」

「たくましく育て」

県では、「健康和歌山」を目標に、乳幼児の健康や命を守るために、医療施設の充実に努めています。

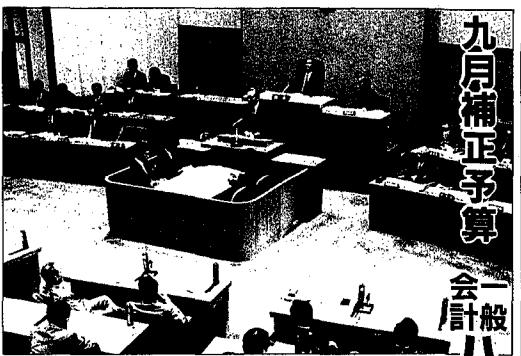
また、県民の健康づくりにも積極的に取り組んでいるところです。

病んでみてわかる健康のありがたさ。

健康をつくり、守るには、一人ひとりの心がけが大切です。

明るく楽しい生活をおくるためにも、日ごろから健康に注意しましょう。

九月補正予算一般八億八千余万円を可決



県民の友

ごあいさつ



副議長
山形繁雄

このたび、私は県議会副議長の重責を担うことになりました。

県政まことに多端の折、議長のもとに、県議会が一体となつて県政の発展に取り組めるよう議会の円滑な運営に最善の努力をいたす所存でございますので、県民のみなさまのより一層のご協力をお願ひいたします。

●泉州沖で本県が推進している理由の一つとして、国内線との併用ということがある。航空会社との調整等色々な問題もあると思うが皆さんの協力を得て、国に強く働きかけていきたい。土取り事業の実施は本県の地域整備における基本的課題の一つであるが、現在のところ本県の候補地は土砂単価等の面で厳しい状況におかれている。今後は空港会社が採算性のみを重視することなく、地元府県

空港問題

●関西国際空港における国内線の確保と県内土取りの見通し

▼泉州沖で本県が推進している理由の一つとして、国内線との併用ということがある。航空会社との調整等色々な問題もあると思うが皆さんの協力を得て、国に強く働きかけていきたい。土取り事業の実施は本県の地域整備における基本的課題の一つであるが、現在のところ本県の候補地は土砂単価等の面で厳しい状況におかれている。今後は空港会社が採算性のみを重視することなく、地元府県

のこれまでの取り組みの経過等を踏まえて決定するよう積極的に働きかけていきたい。

●南紀新空港の調査経過と位置決

定の見通しは

▼これまでの県の調査を基礎として、地元の請願、建設委員会の審議等の経過を踏まえ、現在南紀新空港建設審議会に四候補地について審議をいただいているが、県政にとっても非常に大きなプロジェクトであり、地域の将来の発展も考え十分な審議をしていただきたい。今後は空港会社が採算性の見通しは

よう、県議会の協力を得ながら、早急に適地の選定ができるよう進めていきたい。

農業問題

●本年産みかんの輸出計画と今後の見通し

▼去る四月に決着をみたオレンジ果汁の輸入枠拡大に対する対応や、厳しいみかん経営の実情から、本県としても積極的な海外輸出を推進し、これまで韓国を中心輸出してきたところである。本年度は更にカナダや東南アジア向け輸出を図るため、関係機関と準備を進めている。本年度の目標として、カナダに七百トン、東南アジアに四百トンを計画しているが、今後とも果樹経営の安定を図るために、林業の振興は、厳しい現状認識

よう、県議会の協力を得ながら、早急に適地の選定ができるよう進めていきたい。

福祉問題等

●高齢者福祉対策に対する基本的な考え方

▼本県は、全国でも高齢化比率は上位に入る。それだけに積極的な対策を進めていかなければならぬと考えている。医療、財政問題等が非常に厳しい中ではあるが、医療費対策、一人暮らし対策、生きがい対策、就労対策等に積極的に取り組むとともに、老人の英知、経験等を十分活用し、また、若人との結び付きを強めつつ、本県発展のための基礎づくりをやっていきたい。

●国際青年年に対する本県の取り組みは

▼六十年の国際青年年を控え、本県では、青年団代表、学識経験者を中心に県推進委員会をこの八月に設置したが、委員会の報告を尊重しながら青年自らの活動を促進し、二十一世紀を展望した中長期的な視点に立って、豊富な森林資源

の活用による林業の活性化を図るために、生産性の高い林業の育成や流通加工体制の整備、担い手の育成などの諸施策を推進している。

●覚せい剤追放対策は、本県の覚せい剤犯罪の検挙率は高いが、今後は中毒症状による凶悪事件や覚せい剤による家庭破壊など悲惨な状態を未然に防止するため、引き続き強い取り締まりを行なうほか、覚せい剤取扱者の保管管理業務の強化、啓発教育活動の推進、特に若年層への啓発は重要であるので学校における教育活動の推進など、その根絶を期して今後とも積極的に対処していきたい。

教育問題

●定時制、通信制教育の役割と今後のあり方

▼定時制、通信制教育が勤労青年の教育に果たしてきた役割は大きく、近年新たな活性化を図ろうという社会的要請は極めて高くなっている。本県としては、近く協議会を設置して今後の方針について研究していきたいが、最近の情報化や国際化、更に高齢化が進む中で、新しい社会の変化やニーズにこたえられる学科、教育内容等を工夫して、一層魅力ある方途を検討していきたい。

●同和問題

●地域改善対策協議会の今回の意見申についての対処は

▼本県は、従来から百万県民とともに同和行政を推進しており、和歌山県としての現状を踏まえ、啓発活動についてこうした意見申を契機になお一層積極的に推進していくことを

見ています。

県民の友

● 三日目県政担当一年を迎えての感想と今後の抱負は。

月日のたつのが早いのに驚かされます。あつという間の一周年でしたね。

印象に残っているのは、この三月に高速道路が吉備町まで開通し

したこと、四月の山東省との友好提携締結、十月の国鉄和歌山線の電化、そして県内の優良企業が拡張計画を発表したことなどです。着々と「活力和歌山」の基礎ができる



知事に聞く

県土四、七二三平方キロメートルの広大なキャンパスに県民の皆さんとともに明日の和歌山を描いていきたいと思っています。

● 関西国際空港株式会社発足について
たって今後の取り組みは。

この十月一日に株式会社が発足し、昭和六十七年度の開港にむけ前進を始めたわけですが、本県

浮揚の最大のチャンスにしなければと考えています。

地域社会と調和のとれた空港と

ら跡地利用などを考えると大きなメリットがあるからです。

いずれにしても、二十世紀最大の国家的プロジェクトですから、県益を考えながら積極的に取り組んでいきたいと思います。

● 四月に山東省との友好提携締結、そして八月の訪中と対中国交流が盛んですが、今後の交流計画など一言。

また、来年の「国際青年年」について

徐福以来かかわりのある中国山東省との交流は、四月の締結以後、経済や企業の考察団受け入れなど活発に行っています。

今後の交流については、教育、文化など各分野にわたる幅広いも

文化などになりそうです。当面の予定としては、中国青島港と本県の和歌山下津港の友好港締結をすることになっています。

お互いに実のある、学びあえる交流にしていきたいですね。また、この夏、近畿青年海上大学の学長として若者五百三十人（本県九十人）と一緒に訪中したんですが、中國の青年たちの知識欲や向上心のおう盛さには感心させられました。

あの日の輝きこそが、郷土発展の源だと思いますね。本県の若者にもぜひ、あの日の輝きを持ってもらいたいし、また、持てるよう我々も努力しなくてはと感じました。

若者といえば、来年は国連が定めた「国際青年年」ですね。

「青年こそ国の宝」といわれて

また、当面の問題としては、空港建設に必要な土砂採取地をぜひ、本県に誘致したいですね。なぜな

りつつあること、そして発展の兆しがみえてきたことをうれしく思っています。

また、今後の抱負としては、半島振興法制定や関西国際空港建設の問題はもとより、高速道路の紀南延長をはじめとした総合交通体

系の整備をやりたいです。そして三期目県政の私の公約である

「ふるさと運動」も、若者の力を借りて具体的に実行していきたいです。

これまで、県政担当一年を終ります。感謝の意を込めて、お別れの言葉を

熱い思いを 明日の文化に

高校生たちの文化の祭典、第四回近畿高等学校総合文化祭が、今月十七日（土）から二十五日（日）にかけて和歌山市内の各会場で開催されます。

この文化祭は、近畿二府四県に三重、福井の両県を加えた八府県の若さと情熱にあふれる高校生約六千人の参加のもとに開かれる文化活動です。

「近畿はひとつ」を合い言葉に、文化活動の総合的な発表会を通じて生徒相互の交流と研さんを深め、各地域の伝統文化の継承や新しい芸術文化の創造を通して高等学校の芸術文化活動を高めることができます。

この文化祭を契機に、友情のふれあいや今後の高校生の文化芸術活動が活発になることが期待されています。

● 開会行事 昭和59年11月17日

■ 11月24日 ▼ 演劇—県民文化会館小ホール（午前9時）

■ 11月25日 ▼ 演劇—県民文化会館小ホール（午前9時）▼ マーチングバンド・バトン・ワーリング

■ 11月26日 ▼ 演劇—県民文化会館小ホール（午前9時）

■ 11月27日 ▼ 美術・工芸・書道・写真展—県立体育館（午前9時）

■ 11月28日 ▼ プロローグ、各府県デモンストレーション 午後2時20分～

■ 11月29日 ▼ 開会式 午後0時30分～

■ 11月30日 ▼ パレード（県庁前大通り）午後1時

■ 11月31日 ▼ フェスティバル（県立文化会館前）午後1時

● 部門別発表会

■ 11月18日 ▼ 吹奏楽—県民文化会館大ホール（午前10時）▼ 合唱

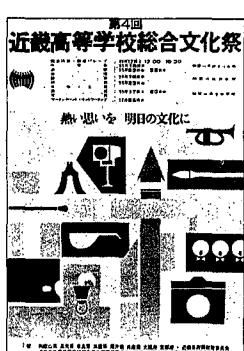
■ 11月19日 ▼ 器楽—市民会館大ホール（午前10時）

■ 11月20日 ▼ 器楽—市民会館小ホール（午後1時）

■ 11月21日 ▼ 器楽—市民会館小ホール（午後1時）

■ 11月22日 ▼ 器楽—市民会館小ホール（午後1時）

■ 11月23日 ▼ 邦楽—市民会館小ホール（午前10時）▼ 演劇—県民文化会館小ホール（正午）



※ 17日は、午後0時20分から午後1時50分まで、歓迎パレードのため県道和歌山港線の加納町交差点から県庁正門東交差点の間が車両全面通行止になりますので注意してください。

点字ブロックは、わたしたちの道標

点字ブロックは、目の不自由な方の道標です。自動車など置かないようにしましょう。

なくそう差別みんな一つの輪になって

「県民みんなの同和運動」に参加を！11月は同和運動推進月間です。



部落差別と、その解決を阻んでいるさまざまな不合理な問題とのかかわりとちがいを正しくとらえましょう。

部落差別は、封建社会のなかで、政治支配のためにつくられた身分差別に根ざすものです。

その点で、現在の日本の社会に存在するさまざまの不合理な問題や差別とは明らかに異なります。

しかし、さまざまな差別と部落差別とは、社会的に基本的人権を侵害されているという点では共通しています。

わたしたちの身邊には、さまざま不合理や差別がありますが、それらの問題と同和問題とは、人権問題としてお互いにかかわりあつてゐるのです。

他人の人権が守られない限り、自分の人権を守ることはできません。

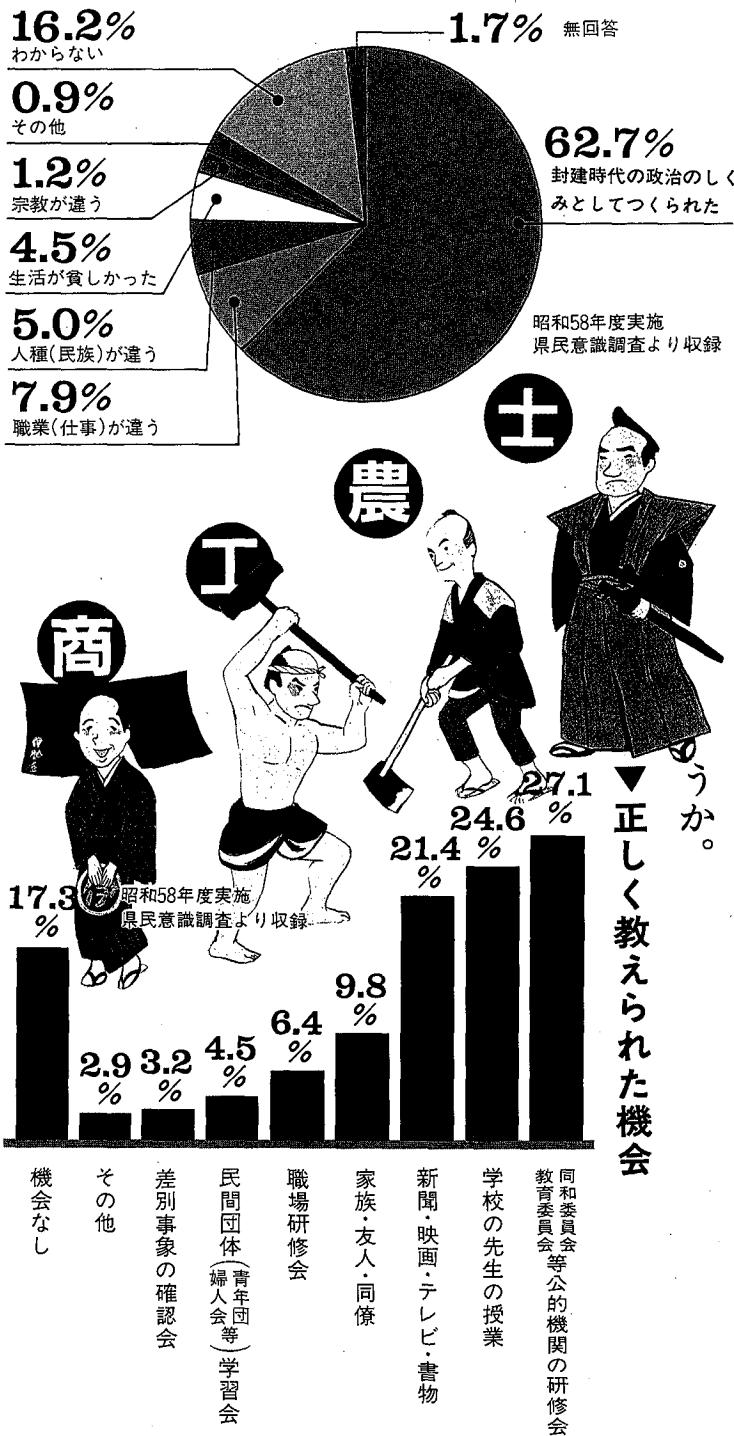
同和問題を解決することは、みんなの、そしてあなた自身の課題なのです。

部落差別の起源を考えよう

政治のしくみによってつくられました

との嫌がる職業だ」とかを単に現象的にとらえて、人を見下げたりするまちがつた考え方や偏見もあるのではないでしょか。

▼正しく教えられた機会



光の輪 51年度 16ミリ・32分

「同和問題とは何か」を結婚差別を例にして学び、同和問題の正しい認識を深め国民的課題である同和問題の早期完全解決を図ることをねらいとしました。

出演 吉田純子 山村弘三 ほか



無料貸し出し

映画フィルム

明日の太陽

52年度 16ミリ・45分

差別意識がどのような人間観、社会観を持つ人々の心に芽生えるのか。そして、それはどのように部落差別としてはたらくのかを親の教育に対する関心という今日の普遍的な問題を通して明らかにし、人々のあるべき姿について同

▼県民の六割強が政治的起源説を支持

この調査では「封建時代に政治のしくみとしてつくられた」と回答した人が六割を超えています。

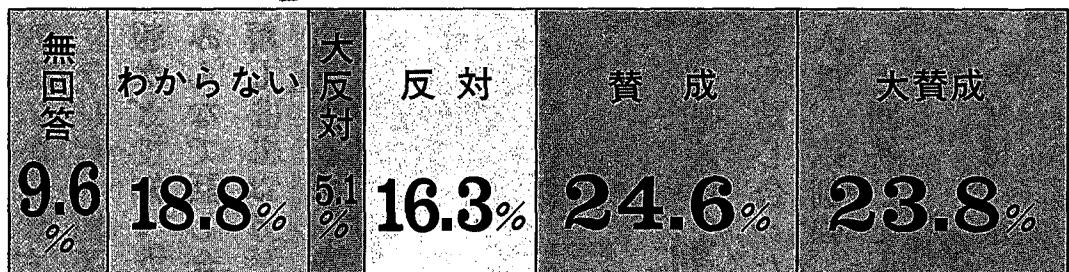
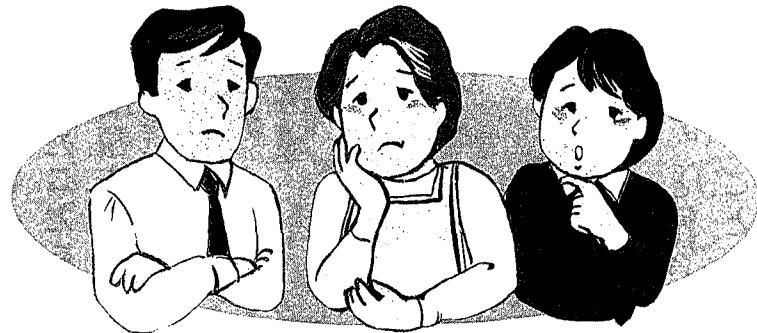
これは、他府県の調査と比較して極めて高い比率です。

しかし、残念ながら「わからない」などの回答も多く、このなかには部落差別に無関心であつたり、「貧しい」とか「ひ

この調査結果からは、地域、学校、職場、学校での学習が大切な課題であることが伺えます。

部落差別を正しく学ぶことによつて、同じ地区の人は、異人種、異民族ではなく、疑いもなく日本民族、日本国民であるのに、封建社会の諸条件に規制されて、一定の地域に強制的に居住させられ、差別をうけてきたことが、理解できるのです。

同和問題は次第になくなっているから
自然になくなるのをまつべきでしょうか？



昭和58年度実施県民意識調査より収録

大賛成・賛成と答えた人は
次のように考えています。

- 同和問題の学習会や研修会には参加しようとしない。

- 同和対策事業を評価していない。

- 同和教育をしなくてもよいと考えている。

- 同和問題解決のために努力しようとはしない。

**自然になくなるのをまつ
という立場とは！**

- 無関心に過ぎて差別を見逃し、差別を許しています。

- いつかまちがつた態度をとるおそれがあります。

- 現実に存在している差別をなくそうとはしません。

- 傍観者であり、差別を温存拡大しています。

寝た子を起こしましよう！

- 学習会に参加して勉強しましよう。
- 差別を鋭く見抜く目をもちましよう。
- 科学的にものを考える力をつけましよう。
- あなた自身が何をすべきかを考えましょう。
- みんなが手をとりあって一日も早く差別をなくしましょう。

和教育の観点から問題を提起した
映画です。
出演 田中由香、野口ふみえ、
長門勇ほか

いのちは緑なれば

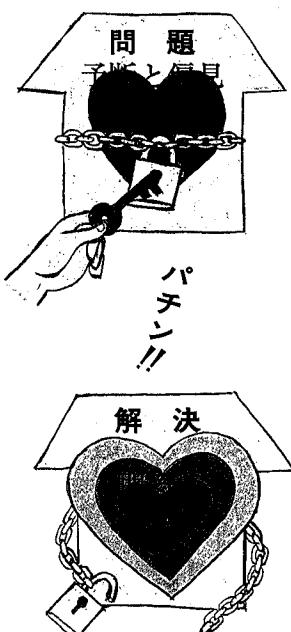
木の国、和歌山の実話にもとづいて、植林事業に身を挺し、子々孫々に受け継ぐ生活基盤づくりを通して部落差別をなくしていく、地区的青年たちの愛と協同のドラマです。

出演 大木実、佐々木愛、
金親保雄ほか





同和問題解決のカギは家庭にあります。学校やPTA、ラジオ、テレビ、地区懇談会、職場、そして広報などで知ったこと、学んだことを家族みんなで話し合い、同和問題を正しく理解しましょう。



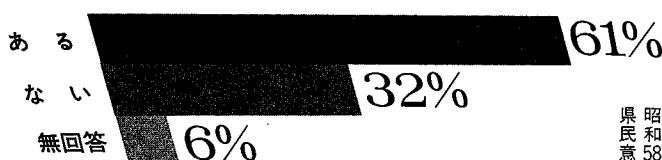
家庭で話し合うと

回答した人は約六割

同和問題について「家庭で話し合ったことがある」と回答した人は、六割強、「話し合ったことはない」と回答した人が、約三割となっています。

また、同和問題について「父母、祖父母からはじめて知られた」とする人が、全体の四分の一を超えており、家庭における同和教育の大切さを物語っています。

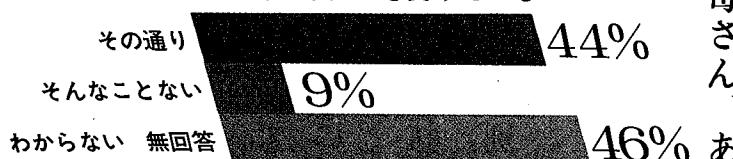
家庭における話し合いの有無



家庭における話題(複数回答)



結婚差別について不利益な扱いを受けている



これらの結果からも、家庭内で家族みんなが、正しく理解し合えるまでとこんな話し合いうことが、同和問題を解決にみちびき、結婚差別を解消するものであることが明らかです。

その主役は、お父さん、お母さん、あなたなのです。

特に、結婚問題については、「相手が関係地区の人であつても結婚する」と答えた両親が六割強、青年が四割強となっています。

特に、結婚問題については、「相手が関係地区の人であつても結婚する」と答えた両親が六割強、青年が四割強となっています。

問題②部落差別の歴史③地区の生活環境となっています。

紀ノ川の美しい自然を背景に若い保母と子どもたちの交流、そして誤解から生じた保護者とのトラブル。その経過を追いかながら「差別」の微妙な構造に迫り、人間同士の眞の連帯と、心の交流が、大切であることを訴えています。

出演 清水めぐみ、大和田瑛ほか



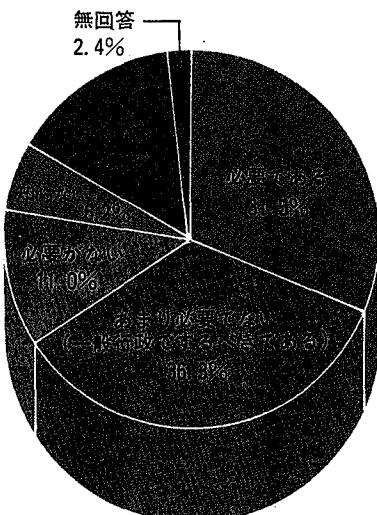
この愛をあなたに

55年度 16ミリ・50分

地区の生活指導員を主人公にし、結婚にかかる問題を軸に、子どもたちとの温かい解れあいを通じて、未来への展望を持つた明るい青春ドラマです。

政治や経済の仕組みの中でつくられた関係地区は、長い間、社会的・経済的・文化的に低位な状態におかれ、劣悪な生活環境を強いられてきました。明治政府も解法令を出しただけで、行政施策としての取り組みをしなかつたため、実態的差別が深められてきました。この低位な実態を取り除くための事業が同和対策事業であり、早急な実施が必要なのです。

同和対策事業は必要ですか。



理解しよう
なぜ
必要なのでしょうか



“ねたみ”による差別はまちがいです

時限立法による集中的な事業実施の現象面だけをとらえて、関係地区だけが優遇され自分たちは放置されているとねたんだり、うらやましがつたりする人がありますが、この事業によって作られた道路や下水排水路などは町の財産であり、みなさんの生活につながる施設なのです。

大切なことは、同和対策の意義を正しく理解することです。

事業実施によって町はどれだけの金額を負担するのでしょうか。

下記の表によつて説明しますと、たとえば町が九百万円の事業を実施する場合、国から $\frac{2}{3}$ の六百万円が補助され、残り三百万円についても国が起債として貸してくれます。この起債三百万円のうち八割の二百四十万円が地方交付税として国から町へ交付されます。従つて町が実際に負担する金額は六十万円でいいわけです。



“ねたみ”やせん望はまちがいです。
無理解による

明日こそ素晴らしい



56年度 16ミリ・50分

差別をなくすと努力している一方、障害児教育に情熱を傾けている地区青年教師の行動を通して、同和問題の本質を考えようと言えている映画です。

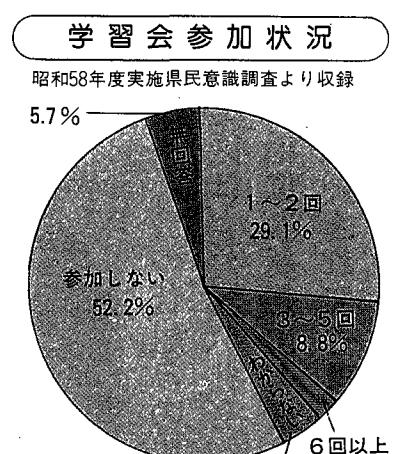
出演 佐野浅夫、清水章吾
紀比呂子、吉田義夫 ほか



青春ドラマです。
出演 矢吹一郎、早乙女愛、滝田裕介 ほか

参加の意志が強いほど正しい理解と深い認識

1 県民の52%が不参加



県民の中には、「寝た子を起こすな」とか「同和問題は自然に解消する」という、あやまつた考えの人々が依然として多く、これらの人々は、学習会や研修会に参加していない場合が多い。

2 女性の学習参加を進めよう

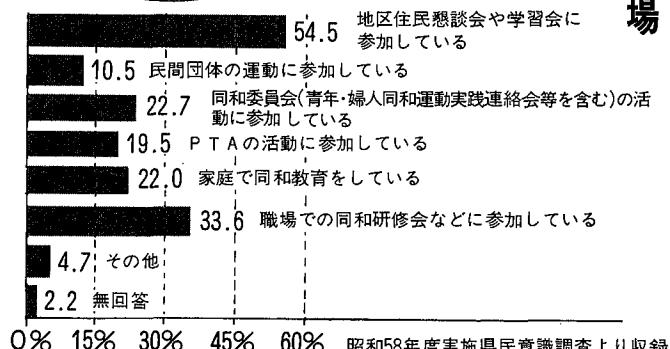
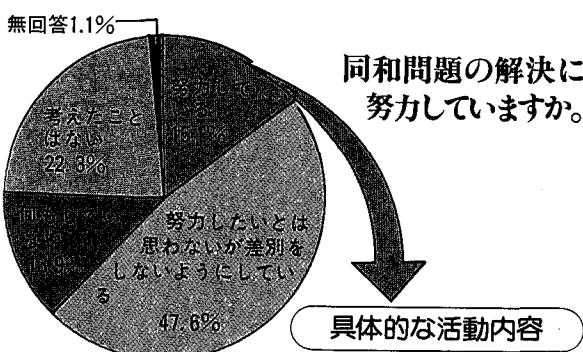
同和問題のすべてについて、女性は男性より認識が低い傾向が見られます。

家庭での同和教育については、その大部分が女性の手にまかされています。

このことから考へても、もつと女性は学習会・研修会に参加して、正しい知識を身につけましょう。

3 学習会参加の場

同和問題の解決に努力していますか。



- ① 同和委員会、教育委員会などの公的機関、団体の主催する研修会に参加して、同和問題を正しく理解しましょう。
- ② 市町村または、青年団・婦人会等地域団体が主催する地区懇談会や職場での学習会に参加して、地域ぐるみで差別をなくすための正しい知識を身につけましょう。
- ③ 学校の同和教育をもつと理解するため、学習会に参加することによつて、同和問題はあなたみずから問題であり、基本的人権の問題であることを認識しましょう。

私たち今…

57年度 16ミリ・50分

主人公の隣保館長を中心として、失われた人間同士の信頼をどのように回復し、実践していくか、同和問題の今日的課題に視点を当て、大切な人間の心の触れあい、連帯感を描いたドラマです。



青春

58年度 16ミリ・55分

地区出身の青年と一般地区青年との友情と同和問題とのからみ合を通し、大学の部落研で同和問題を学び、社会に出て部落差別にふれるなかで、青年として正していく姿とスポーツを通じて、明るい社会を目指して努力する多感な青春の群像を描いたドラマ。



出演
三條美紀
千葉敏郎
利倉亮
草川祐馬
ほか

新克利
執行佐智子
木村四郎
山本郁子
ほか

青年、婦人の学習と

実践活動を活発にしよう

○青年は新しい創造者として、まちがつた考え方や偏見を断ち、健全な価値観を形成していく推進者とならなければなりません。そのためには、まず第一に、古いまちがつた風潮に左右されないで、正しく近代的な価値観を身につけ、周囲の人々に信頼されることです。第二は、仲間づくりの良き推進者とならなければならないということです。

同和問題に関して、できれば避けて通りたいとする風潮を正し、今の世に生きる人間の心と心をどう寄せ合いかの問題として、村づくり町づくり、ひいては仲間づくりの推進者となつてほしいのです。

こうした学習や実践活動を通して、真に開かれたコミュニケーションづくりに努力することが、同和問題解決への二十一世紀を担う青年の役割であり使命です。

○婦人は歴史的にみても、女性であるが故によく差別の対象とされてきました。「差別」というものに対してもは人一倍敏感な面を持つていいはずですが、案外無

感心のままで過ごされています。わたしたちの生活の中には差別を支えている要因がいろいろあります。この要因をしっかりとみつめ、取り除いていくことが大切です。これが生活にからみついたものであるだけに、家庭・地域で生活している婦人にその役割を多く担つてもらわなければなりません。

婦人は家庭を中心として、近隣とのつきあい・子供を通しての交流、あるいは地域婦人団体等の地域活動などを通して、それぞれの地域とのつながりを深めています。これらとのつながりの中で、私たちの身の回りにあるもろもろの差別や偏見を断ち切るために生活のすべてを見直しからためていくよう心がけてください。そして、正しくものを見つめて、正しく知ることに努め、あるいは正しく判断し、行動するために、学習会、研修会に積極的に参加するなかで得た正しい同和問題の認識を基礎として、婦人みずからが実践活動を推進することが差別をなくす婦人の果す役割であり使命です。

新入児の検査の日のことです。
ぼくは、先生からやさしく思
い除いていくことが大切です。こ
れが生活にからみついたものであ
るだけに、家庭・地域で生活して
いる婦人にその役割を多く担つて
もらわなければなりません。

新入児の検査の日のことです。
ぼくは、先生にたっさされてい
ました。その子は先生にたっさられてい
ました。ぼくは、その時だれかの赤ちゃ
んかなと思いました。よく見ると
その子には、あたがついていまし
た。ぼくは、どこか病気にもか
かっているのかなと思いました。よく見ると
その子は、みんなより体が小さ
く足もすこし曲がっていました。

自分の足でじっかりと歩くこと
ができるのがあと、とても心配
でした。

みんなより体のはついたが、少
しおくれているように思いました。
その時ぼくは、あんな小さい時
から関節の悪い病気なんかにかかる
つたために、体のはついくもみん
なよりおくれているなんて気の毒
な言えませんでした。そして、ほ
かの新入児たちがそれを見て「う
と、きつく言いたかつたけど新入
児たちが、こわがつて立いたら
いへんだからやめました。今あの
とき言っておけばよかつたと思つ
ています。ぼくは、その時、その
子が笑われているのを知らない
け、かわいそうに思いました。
ぼくは、その子に比べたら、不
自由のない体で生まれてきたのだ
が、その子にもっと心をつかう
べきだったと思うっています。
それから、ぼくは、みんなと同
じことができなかつたら学校にこ
れないのでかなと心配しています。
必ず、ほくたちの小学校に入れる
ように祈っています。必ず、みんな
がんばるんだと心で言つていい
なでたたかくむかえてあげたい
と思っています。

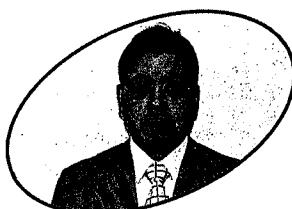
ぼくは、その子にかんばる
た、がんばるんだと心で言つていい
ました。きっと、病気に勝つてほ
しいと思います。

同じ新入児の子も、その子をさ
けないで仲良くしてあげ、助け合
ってほしいです。

ぼくも今まで映画や本を読んで
いたけれど、またまだわからな
いことかいっぱいあったのに気付
きました。今日の出来事を通じて、
体の不自由な人の苦しさや、人の
世話をすることの大切さを知りました。
した、そして一番大切なことは、
どんな境ぐうの人たって幸せに生
きていかなくてはだめなんだと
思います。

同	和	運
進	作	動
文		

人権について

県ボランティア連絡協議会
会長 桜井益美さん

県民総ボランティアが願い

愛徳整肢園(和歌山市)
での高校生たちのワークキャンプ

ボランティアとの出会いは、昭和40年、自動車学校長の時でした。
「私の仕事は、交通事故の原因をつくっているのではないか。だから交通遺児に対し少しでも手を

さしのべたら」というのが動機だつたんです。それで、「交通遺児を励ます会」をつくり、交通遺児に無償還の奨学金制度を制定、運営しているところです。

わたしは、百八万県民総ボランティアが願いなんです。

この世の中、根本は「愛」ですよ。みんな助け合ってこそ、明るい地域社会ができるんだと思います。

その意味からもボランティアが、地域に根ざして、その輪が大きくなり地域社会ができるんだと思います。

お年寄りとの作文交換をはじめとした交流や障害児との音楽会など、生徒たちは、もうすっかりボ

近くに老人ホームがあることもあって、社会福祉協力校の第一期として指定されて8年目。お年寄りや障害児との交流が盛んな和田小学校、ボランティア活動の主役は子供たちです。4~6年生で実行委員会(17人)をつくり、毎年の企画を立てます。

「お嬢ちゃん長生きしてね」という言葉が、はねあちゃんらもぞうきんなんかようけ持つてきてくれるよ」と実行委員会6年生の子供たち。「ばくら、中学校へ行つても続けられました。その瞳は、すばらしく輝いていました。



養護施設(橋本市)で「お嬢ちゃんとあそぼう」

県民の声 一声がけて 手をそえて

『愛』この一文字に漂う「ぬぐもり」や「希望」、こんな素晴らしい言葉の意味を、そして実践について県民の皆さんに考えてもらおうと設けた十一月十五日の「愛の日」も今年で十七回目。今では、約一万五千人の方々が、県下各地でボランティア活動を実践しています。

わたしたちみんなが持つている優しさやまごころを、この日をきっかけとして行動に移し、心温かい住みよい郷土をつくりましょう。

近所の方と始めた親子読書会が発展してできたグループ「声」も、今年でもう15年です。

おかげで今は、「ハンディ・ラブ」

中学校でも続ける

美浜町立
和田小学校

「お嬢ちゃん長生きしてね」という言葉が、はねあちゃんらもぞうきんなんかようけ持つてきてくれるよ」と実行委員会6年生の子供たち。「ばくら、中学校へ行つても続けられました。その瞳は、すばらしく輝いていました。

声を通して
つながるグループ「声」代表
山本和子さん

続けていくことが、とっても大事なんですね。「声の県民の友」や「声の市報」を作らせてもらっていますが、「決まったものを作り上げる」ことが「声」を育ててくれたんだと感謝しているんですよ。

ところで、「声」って後から読むとエコーって読めるでしょ。わたしも大事なんですね。「声の県民の友」や「声の市報」を作らせてもらっていますが、「決まったものを作り上げる」ことが「声」を育ててくれたんだと感謝しているんですよ。

JRC、手話、人形劇、学校家庭のサークルはもちろん、先生方の協力で各クラスの厚生委員にその仕事を割り当てたんです。古切手集めや募金をはじめ、保育園へ人形劇や一日保母さんとして行ったり、手話同時通訳、市内の養護施設での子供たちとのスキンシップなど生徒は一生懸命です。

子供の扱い方など、共に悩みながら充実してきましたが、「もっと時間があれば」と思います。生徒も労を惜しまないようになりました。「貴重な体験ができる良かった」と言ってくれるのが、うれしいですね。

もつと時間が…

社会福祉協力校(2期)
県立橋本高校教諭
ボランティア担当
小林聰代さん

和歌山と私

(由良町
野村ヒサ子)

(曲良町 野村ヒサ子)

まか

紀北地方に片寄つてゐる工業地帯、高速道路もやつと吉備町まで通じ、今後、湯浅、由良を経由して御坊そして白浜へと大動脈の延長されるとを念願してゐます。そして私どもの住んでゐる日高方は日高港湾、田園テクノポリス計画、それにテレトピアなど和歌山県の今後の発展の基をなすべく、いろいろな計画が目白押しと聞いています。

もつといいろいろ子どもたちへの接し方があったのでしようが、それができずに終わってしまったことは後悔です。しかし、この後悔は日本に帰ってきてからきっと生かせるものだと思っています。

中国で出会った子どもたちも、その子どものことについで船内でいろいろなことを吸収できました。このことは中國以上に私に大きな影響を与えてくれました。

良きにつけ悪しきにつけ、いろいろなことを考え方経験できたこの二週間が、この先どう生かされるのか、生かしていけるのか、自分自身でドキドキしています。でも肩ひじ

子どもたちに会いたいと思いました。実際、行く先で話しかけたりもしましたが、しかし「わあかわいい」的で終わってしまったような気がします。

近畿青年洋上大学に
参加して

魚、これらすべてを県民の皆さんとしつかり守っていきた
いと願うのは私一人だけでし
ょうか。

だけは張りません。肩の力を抜いて…。

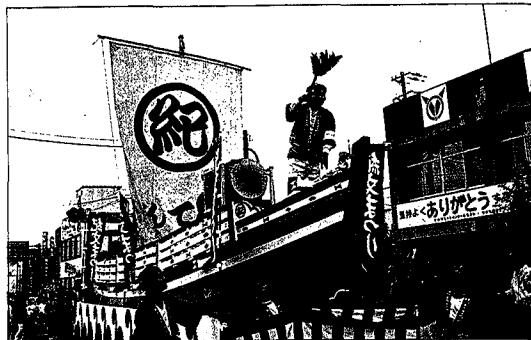


中国の子どもたちと交歓する洋上大学生

融資など

<p>課題 小3「けんこう」、小4「生きる力」、小5「元気な子」 小6「若い生命」、中1「小さな親切」、中2「明るい未来」、 中3「美しい自然」、高校「紀州海岸」美「紅葉紀州路」「光の瀧」心「夜静漢声近」のうち「一つ書体」 中1以下「かい書」、中2「行書」、高校生「自由書」、幅20㌢、長さ70㌢（縦書き） 申込 11月30日までに学校を通じて最寄りの県事務所の総務課へ（和歌山市は県庁生活交通課） 応募資格 県内居住者、勤務者 返却しません。くわしくは県庁生活交通課、各県事務所総務課、各学校へ 応募は一人一作品、作品は返却しません。くわしくは県庁生活交通課、各県事務所総務課、各学校へ 年間スローガン くわしくは申込先へ 応募料 平見団地 太地町大平見 賞金額 一枚につき、住所、氏名 年齢、職業を書いて12月31日までに県庁生活交通課へ。 申込方法 申込用紙配布 申込期限 11月1日～19日 受付場所 市町村役場 抽選 11月20日、21日 申込期限 11月22日、太地町役場 くわしくは 用紙配布先へ 根強い外交支える世論 北方領土 </p>
--

みこしの収蔵庫が完成



第六回紀文まつり

紀伊国屋文左衛門にちなんで名付けられた有田市の紀文まつり。年々にぎわいをみせ、今年で6年目を迎えました。

11月2日の前夜祭は市民会館に有田郡市と下津町ののど自慢たちが集まりカラオケ大会が開かれます。3日の本祭は鼓笛隊、音楽隊、紀文屋形船、子どもみこしなどの紀文パレードや紀文大福モチ投げ、ミカンの配布など多彩な催しがあり、産業展として商品の展示即売もあります。

(有田市)



外観は八幡神社本殿（重要文化財）にならない、「一間向拝付き三間社流造り、屋根は銅板ふきで、建設にあたり、空調はもちろん、防犯などに細心の注意が払われています。

みこしは現在、県立博物館に収蔵されていますが、13年ぶりに地元に戻ることに大変楽しみにしています。
(粉河町)

炳測八幡神社にみこし(国宝)の収蔵庫が新しく完成。10月1日に同神社境内でしゆん工式が盛大に行われました。

稚ゴイを放流



新宮市の河川を美しくする会が9月30日、市内を流れる市田川に稚ゴイ六千匹を放流しました。同会では河川の美化とコイの成長に熱い期待を寄せていました。

(新宮市)

お年寄りの自転車安全競技大会

県下で初めての高齢者(60歳以上)自転車安全競技大会が田辺市の南紀青少年スポーツセンターで行われました。

田辺警察署管内から集まつた62人のお年寄りは学科試験と体育館内のコースを実際に走る実技試験に取り組みました。

コースや右左折の合図を間違えたり転倒したりする人もいましたが参加者は真剣そのもの。

自転車の安全運転の大切さを再確認しました。
(田辺市)



農林漁業体験実習館がオープン

都市生活者や学童たちに研修やレクリエーションを通じて農林漁業への理解を深めてもらおうと、新宮市が建設していた農林漁業体験実習館がオープンしました。

周辺には新熊野体験研修センターやテニスコートのほか、学習の森、森林、自然美を満喫しながら学習できる施設も整備されており、市では幅広く利用を呼びかけています。

(新宮市)

あ ど が き

灯火親しむ候となりました。先月末から読書週間が始まります。いまが、秋の夜長を活字とともに過ごすというのも、また良いものですね。

ただ、最近の活字離れが年齢層に関係なく広がっているのが少し気になります。

三面で「知事に聞く」を掲載しました。今後隨時、そのときどきの県政の課題などについて、知事に聞いてまいります。

なんだといわれています。また、その庭は、平安期に流行した「曲水泉」といわれるもので全国でわずか三カ所だけという貴重なもので。

源義経とのかかわりも深く、家臣として衣川館で戦死した鈴木三郎重家、龟井六郎重清兄弟は有名。牛若丸(義経の幼名)が、熊野往還のときは必ずこの屋敷に滞在し山野に遊んでいたといわれています。

藤白神社の境内にある「鈴木屋敷」は、全

「鈴木」姓の祖先は、鎌倉時代(にぎはや)

ひのみこと)の孫、千翁命(ちおきなみこ

と)が神武東征の際、天皇に稻を献じたので

「穂積」の姓を賜わったが、稻を積み重ねた

のを「すずき」といったところから「鈴木」

姓になつたとか。

邸内には、「義経の弓掛松」がみられるなど、

源義経とのかかわりも深く、家臣として衣

川館で戦死した鈴木三郎重家、龟井六郎重清

兄弟は有名。牛若丸(義経の幼名)が、熊野

往還のときは必ずこの屋敷に滞在し山野に遊

鈴木屋敷

海南市藤白



シリーズ
2
ふるさと民謡